がんの痛み「9割緩和」

北見日赤病院で講演会

緩和ケアについて講演する後明郁男氏

北見赤十字病院の明日を考え支援する会は2日、患者の心身の苦痛を和らげる緩和ケアを紹介する講演会を同病院で開いた。講師の同病院緩和ケア内科部長の後明（ごみょう）郁男医師は「9割近くの人のがんの痛みが和らげられる時代になった」と語った。

昨年12月にオホーツク管内初の緩和ケア病棟（20床）が同病院の新しい本館に新設されたのに合わせて開催。約30人が耳を傾けた。

後明氏は緩和ケアについて「急性期医療と対極のものではなく、寄り添い合う存在」と紹介。また、がんの終末期の症状である呼吸困難や吐き気などについても、痛みと同様に和らげられるようになってきたと伝えた。

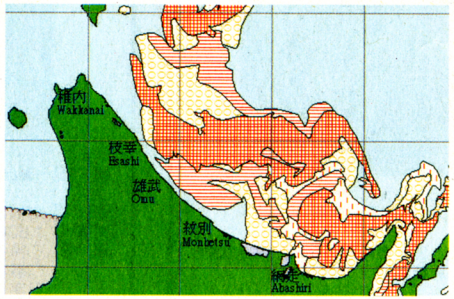
参加者との懇談で、後明氏はがんで亡くなる人が増える状況を踏まえ、在宅治療の重要性を強調。その上で、新病棟の役割について「日々進歩する緩和ケアのモデルを示すほか、在宅患者の緊急入院先や一時入院先になることが期待される」と語った。（金子俊介）

道新野生生物基金

（2日）◇全道の各道新販売所に置かれた募金箱に8万8503円。

流氷情報

3月2日午後5時現在、第1管区海上保安本部提供



道新 H27.03.02